

## 精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次の記述のうち、諸外国における精神保健医療福祉の歴史に関する内容として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ニュージーランドでは、自発的入院を認めた「法律第 431 号」が成立した。
- 2 アメリカでは、精神保健サービスの基準を示す「ルッキング・フォワード」が公表された。
- 3 イタリアでは、公立精神科病院を解体する「精神疾患および知的障害者に関する大統領教書」が公表された。
- 4 フランスでは、精神保健政策を示した「ついに闇からの脱出」が公表された。
- 5 イギリスでは、ケアマネジメントを導入する「国民保健サービス及びコミュニティケア法」が成立した。

問題 37 次のうち、2022 年(令和 4 年)の精神保健福祉士法改正により、新たに規定された精神保健福祉士の業として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 社会復帰に関する相談
- 2 地域相談支援の利用に関する相談
- 3 精神保健に関する課題を抱える者の精神保健に関する相談
- 4 医師その他の保健医療サービスを提供する者との連絡及び調整
- 5 応用的動作能力又は社会的適応能力の回復を図るための作業活動

問題 38 次の記述のうち、レジリエンス(resilience)の説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 自己決定能力を高め、自己を主張し、生きていく力を発揮すること。
- 2 社会に完全かつ効果的に参加し、受け入れられていること。
- 3 病気自体は治っていなくても、人生における新しい意味と目的を発展させること。
- 4 困難な状況に耐え、やがて立ち直る力を本来的に有していること。
- 5 全ての人を社会の構成員として包み込むこと。

問題 39 次のうち、国連総会で採択された「精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則」(1991年)の内容として、正しいものを2つ選びなさい。

- 1 入院原則として、精神保健施設へのアクセスは他の疾患とは異なる方法で行われる。
- 2 患者の精神状態により、インフォームド・コンセントの権利を放棄するように求めたり、また放棄を勧めたりすることができる。
- 3 精神疾患を有するとの判定は、各国が独自に認めた医学的基準に即して行われるものとする。
- 4 不妊手術は、精神疾患の治療として、決してこれを行わないものとする。
- 5 すべての人は、可能な最善のメンタルヘルスケアを受ける権利を有する。

(注) 「精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則」の日本語訳は、厚生科学研究班の仮訳によるものである。

問題 40 次の記述のうち、IMR(疾病管理とリハビリ)のプログラムの説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 物質依存症の人々のために開発された。
- 2 ストレス-脆弱性ぜいじゃくせいモデルを病気の自己管理の基礎としている。
- 3 家族と支援者は関与しないことが推奨されている。
- 4 個々のニーズに応じてオーダーメイドされた内容で構成される。
- 5 精神疾患の一次予防を目的としている。

問題 41 Dさん(30歳)は半年前に精神科病院を退院し、週3日アルバイトを行い、1日は精神科デイ・ケアを利用している。病状は落ち着いており、デイケアには時間に遅れずにやって来て、メンバーとレクリエーションを楽しんでいた。ところが、Dさんがデイケアを休むことが続いたので、心配した担当の精神保健福祉士が電話をした。Dさんは、「メンバーからカラオケ店に頻繁に誘われるようになった。疲れるので行きたくないが、相手の気分を害するのではないかと思うと断れない」と話した。話を聞いた精神保健福祉士は、Dさんにデイケアの新たなプログラムへの参加を提案した。

次のうち、精神保健福祉士がDさんに提案したプログラムの目的として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 正規雇用の仕事に就く準備
- 2 服薬の自己管理
- 3 生活リズムの改善
- 4 ソーシャルスキルの獲得
- 5 疾病や障害の正しい知識の学習

問題 42 次の記述のうち、精神科医療機関における退院に向けたチームアプローチの説明として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 構成員同士の良好な関係性を保つため、率直な意見表明は控える。
- 2 利用者の意向を尊重するため、利用者参加を原則とする。
- 3 多様なニーズに対応するため、構成員の役割分担を明確化する。
- 4 構成員の対等性を重視するため、チームリーダーは見守りに徹する。
- 5 秘密保持を厳守するため、日常的なコミュニケーションは控える。

問題 43 次の記述のうち、社会リハビリテーションにおけるアセスメントとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 地域移行に向けた外泊訓練の効果について検証する。
- 2 利用可能な福祉サービス事業所の状況を把握する。
- 3 一人暮らしに向けた支援体制をつくる。
- 4 新たなニーズが生じた際に支援できるよう地域のネットワークを確認する。
- 5 精神障害者保健福祉手帳取得で活用できるサービスの拡充を検討する。

問題 44 次の記述のうち、生活場面面接の特徴として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 プライバシーに配慮して、匿名性を保ちながら行う。
- 2 クライエントの認知を改善し、行動を変容させる。
- 3 クライエントが、比較的にリラックスした状態で話せる。
- 4 自宅や入所施設の自室、入院中の病室などで行う。
- 5 クライエントの生活困難課題を取り上げて、実際に再現してみる。

問題 45 次のうち、統合失調症の再発率を高めるとされる家族の状況として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 共依存
- 2 イネイブリング
- 3 高い感情表出
- 4 投影性同一視
- 5 逆転移

問題 46 統合失調症の娘をもつEさん(70歳, 女性)は10年前より家族相談員として活動している。ある日の相談会に, Fさん(45歳, 女性)が初めて相談に訪れ, 「息子が病気になったのは親のせいなのではないでしょうか」と沈鬱な表情で話した。Eさんは, 「私も娘が病気になった頃は自分を責めてばかりでした」と話すと, Fさんは, 「Eさんもそうだったのですか」と言い, 涙を流した。その後Fさんは度々相談会に訪れ, 半年経った頃には, 「自分を責めてもしょうがないですね。自分の人生を楽しんでもいいですよ」と笑顔で話すようになった。EさんはFさんの変化に励まされ, 相談員の活動にやりがいを感じた。

次のうち, 家族相談員の活動を通して, Eさんにもたらされたことを示す概念として, 適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ピア・アドボケイト
- 2 カタルシス
- 3 ヘルパー・セラピー原理
- 4 バウンダリー
- 5 リフレージング

**問題 47** 精神科病院に入職して4か月たつ**G**精神保健福祉士(22歳)は、入職8年目の**H**精神保健福祉士から、定期的にスーパービジョンを受けている。

今日は、**H**精神保健福祉士が、**G**精神保健福祉士と入院患者との面接に同席した。面接が終わると、2人は相談室に戻り、振り返りを行った。**H**精神保健福祉士は、「よいタイミングで相づちを入れて話を引き出していましたね」と話した。**G**精神保健福祉士は、「次の話題へどのように進めればいいのか迷いました。あれでよかったのでしょうか」と**H**精神保健福祉士に話した。そこで、**H**精神保健福祉士は気づきを促した。

次のうち、この場面で行われたスーパービジョンの形態に関する説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ピア・スーパービジョン
- 2 ライブ・スーパービジョン
- 3 セルフ・スーパービジョン
- 4 ユニット・スーパービジョン
- 5 グループ・スーパービジョン

問題 48 Jさん(55歳)は、精神科病院を退院後、地域活動支援センターを利用しながら在宅生活を継続している。最近、健康診断を受けた結果、専門病院の受診を勧められ、初期の大腸がんが見つかった。地域活動支援センターのK精神保健福祉士は、Jさんの同意を得た後、がん治療を担当する主治医から、「治療をしていく中で、腹痛や嘔吐、血便、便秘などが出現することが予想されるため、支援を行う際は体調に気を付けて欲しい」との情報を得た。そこで、個別支援に反映させていくこととした。

次のうち、K精神保健福祉士と主治医との間で行われたこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 アサーション
- 2 フィードバック
- 3 スクリーニング
- 4 カンファレンス
- 5 コンサルテーション



## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

### [事 例]

Lさん(41歳, 男性)は, 20代で統合失調症と診断され, 服薬を中断して体調を崩しては入退院を繰り返し, 今回の入院となった。なかなか病状が安定しなかったが, 入院して1年が過ぎ安定してきた。病棟担当の精神保健福祉士は, Lさんから, 「両親とも70代で体調が悪いので, もう負担はかけられない。一人暮らしをして自立したいが, これまで家事は母親に任せきりだったため, いざ一人暮らしを考えると不安がある」と聞いた。そこで, 地域移行支援を紹介し, 利用することになった。後日, 相談支援事業所のM精神保健福祉士とピアサポーターのAさんがLさんの元を訪れた。Aさんは, 「僕も退院が不安だったけど, いろいろな助けを借りて一人暮らしができているし, 好きなことに打ち込めて楽しいよ」と話し, 自身の生活や利用しているサービスについて説明した。(問題 49)

Lさんは, 「両親が貯めてくれたお金があるので, しばらくは生活の心配はないと思う」「Aさんのように一人暮らしを継続し, 再入院しないで, 好きな鉄道を自由に行きたい」「自炊したいし, 家事や生活費のやりくりも頑張りたいが, 自信がない」「ささいなことが心配になるので, 相談できる場所があると助かる」と話した。M精神保健福祉士は, Lさんの思いを受け止め, 地域移行支援計画案を作成した。(問題 50)

Lさんは, AさんやM精神保健福祉士の支援を受けて退院し, 引き続き地域定着支援を受けながら一人暮らしを始めた。そして, 地域活動支援センターのB精神保健福祉士の支援を受けながら, フリースペースの利用や毎日の夕食会に参加し始めた。さらに, 居宅介護による掃除の支援や訪問看護を利用して生活に慣れていった。しかし, ほどなくしてフリースペースや夕食会に顔を見せなくなった。B精神保健福祉士は, M精神保健福祉士と訪問看護師にこのことを話し, 訪問看護時に一緒にLさん宅を訪れた。Lさんは, 「夕食会で話の合う人がいないので居づらく, 行けなくなりました。そのことに悩んだり, 夕食作りなど家事を頑張ったので疲れてしまった。今は寝てばかりいて, 家にひきこもっている。このままだとまた入院になってしまうのでしょうか」と話した。そこでケア会議が開催された。(問題 51)

問題 49 次のうち、この時のLさんに対するAさんの役割を表すものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 セカンドオピニオン
- 2 アドボケーター
- 3 メディエーター
- 4 エデュケーター
- 5 ロールモデル

問題 50 次の記述のうち、この計画案の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 服薬の自己管理をするために、心理教育プログラムに参加する。
- 2 生活費を自己管理するために、生活困窮者家計改善支援事業を利用する。
- 3 料理や掃除、洗濯が一人でできるようになるために、退院まで1年かけて練習する。
- 4 心配を軽減するために、アサーション・トレーニングを行う。
- 5 一人暮らしをするために、Aさんにアパート探しを依頼する。

問題 51 次の記述のうち、この時のケア会議の参加者がLさんに話したこととして、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 訪問看護師：「生活リズムを立て直すために、入院を考えてみませんか」
- 2 B精神保健福祉士：「鉄道好きなメンバーがいるので、声を掛けてみましょうか」
- 3 M精神保健福祉士：「無理せず、ご実家で暮らすようにしますか」
- 4 ホームヘルパー：「家事ができるようになったので、もう少し頑張ると楽になりますよ」
- 5 Aさん：「一緒に夕食のお惣菜そうざいを買いに行きませんか」

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

### [事 例]

Cさん(45歳、女性)は、20歳の時に母親を亡くし、その後は父親と二人で暮らしてきた。35歳で統合失調症を発症し、入退院を繰り返したが、最近はいケアに通いながら父親と家事を分担し、安定した生活を送っていた。ところが、父親が脳梗塞で倒れ、しばらく入院することになった。Cさんはショックで体調を崩し、いケアを休む日が続いた。心配しいケアのD精神保健福祉士が自宅を訪問すると、部屋に衣類が散乱していた。D精神保健福祉士が声を掛けると、Cさんは心細さから、「私はどうしたらいいのか分からない」と泣き始めた。D精神保健福祉士は、Cさんに同伴して父親の見舞いに行き、病院で説明された病状を解説したり、自宅に訪問してCさんの不安解消に努めた。また、Cさんが、「一人でいるのが怖い」と訴えたので、以前も利用したことのあるショートステイを勧めた。(問題 52)

ショートステイ後、Cさんは落ち着きを取り戻し自宅に戻った。しばらくして父親も退院することとなったが、父親には片麻痺かたまひが残り、今までのように家事を行うことは難しかった。ケアマネジャーはCさんのことも考え、父親に対してしばらく施設に入所してはどうかと勧めた。それを聞いたCさんは、「でもお父さんと一緒に暮らしたい」と困惑した表情で言った。D精神保健福祉士は、Cさんが介護に疲れて生活が成り立たなくなるのではないかと考えたケアマネジャーの意見に賛同したい一方で、Cさんの気持ちを考えて葛藤を抱えた。(問題 53)

その後、父親は自宅に戻った。Cさんは父親への訪問介護を活用しながら、食事作りと父親の介護を続けた。ある日、D精神保健福祉士がCさん宅を訪ねて様子を聞くと、数日前から一日一食しか摂っていないとのことであった。理由を聞くと、父親に健康飲料を飲ませたら元気になったように見えたので、追加で購入したら予想外に出費がかさんだと話した。Cさんは、「お父さんに元気になってもらいたいので、これからも健康飲料を買うつもり」と言った。そこで、D精神保健福祉士は、現段階での対応としてある提案をした。(問題 54)

問題 52 次のうち、この時のCさんに対するD精神保健福祉士が用いたアプローチとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 家族システムアプローチ
- 2 課題中心アプローチ
- 3 ナラティブアプローチ
- 4 危機介入アプローチ
- 5 心理社会的アプローチ

問題 53 次の記述のうち、D精神保健福祉士が抱えた自分の葛藤への対処として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 Cさんの意思を確認し、その判断に委ねる。
- 2 Cさんの主治医に連絡を取り、指示を求める。
- 3 父親の自宅介護に必要なサービスについて、ケアマネジャーと相談する。
- 4 父親の介護が心身にどの程度の負担となるかをCさんと話し合う。
- 5 精神保健福祉士法に目を通し、精神保健福祉士として適切な行動を確認する。

問題 54 次のうち、この時のD精神保健福祉士が行ったCさんへの提案として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 成年後見制度の利用
- 2 健康飲料の購入中止
- 3 訪問介護員に対する二人分の食事提供依頼
- 4 地域定着支援事業の利用
- 5 健康飲料を購入する上限額の設定

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題3)

次の事例を読んで、問題55から問題57までについて答えなさい。

[事例]

Eさん(19歳, 男性)は、高校2年時に自閉スペクトラム症と診断された。3年時に就職活動を行ったが、面接で質問に適切に答えられないことや、ゲームに熱中して寝坊し面接に間に合わないことが何度もあり、不採用が続いた。度重なる不採用の連絡と就職活動の指導によるストレスでうつ状態となり、就職活動を中止したまま卒業した。

1年後、Eさんは主治医から就職活動再開を提案され、通院先のF精神保健福祉士と面談した。F精神保健福祉士は、Eさんには一度見たものを正確に覚える、集中力があるという強みがある一方、高校時代からの課題に加え、自分から相談することは苦手なことが分かった。Eさんは配慮してくれる会社で働くことを希望したため、F精神保健福祉士は精神障害者保健福祉手帳の取得を支援した。そして、V就労移行支援事業所をEさんに紹介し、利用できるよう支援した。(問題55)

V就労移行支援事業所のG精神保健福祉士は、Eさんの訓練の様子を見て、地域のイベントで顔見知りになったW社の社長が頭に浮かんだ。そこで、W社に雇用の可能性について問い合わせたところ、「Eさんに合った仕事があるか分からない」とのことであった。(問題56)

その後、EさんはW社において事務の仕事で職場実習を開始した。実習5日目に、W社の担当者からG精神保健福祉士に、「話があるので来て欲しい」と電話があった。G精神保健福祉士が訪問したところ、担当者は、「Eさんに何度も手順の間違いを指摘したが、同じ失敗を繰り返す」「何かあれば相談するよう伝えていたのに、今日は無断で遅刻した」「このままだと実習継続は厳しい」と話した。一方、Eさんは、「社員から何を注意されたか分からず、とても疲れた。今朝起きたら始業時間を過ぎていたので急いで来たが、実習を始めさせてもらえない」と話した。G精神保健福祉士は、担当者にEさんの対応について助言した。(問題57)

G精神保健福祉士のサポートによりEさんの職場実習は順調に進み、W社はEさんの雇用について前向きに検討し始めた。

問題 55 次のうち、この時のF精神保健福祉士の対応として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ネゴシエーション
- 2 インフォームドチョイス
- 3 オリエンテーション
- 4 アカウンタビリティ
- 5 リファーマル

問題 56 次の記述のうち、この時点でG精神保健福祉士がW社に対して行うこととして、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自分がW社の仕事を見学し、体験できるよう依頼する。
- 2 就労移行支援の制度について説明する。
- 3 Eさんの特性を詳細に伝え、できそうな仕事を探すよう依頼する。
- 4 Eさんを雇用すると助成金の受給が可能となることを説明する。
- 5 Eさんと面接し、雇用の可能性を判断してもらうよう提案する。

問題 57 次の記述のうち、G精神保健福祉士が行った助言として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 「遅刻した時は、理由を聞かずそっとしておきましょう」
- 2 「作業手順書を作成し、Eさんに渡してはどうでしょうか」
- 3 「発注データの確認作業を担当させることを検討しませんか」
- 4 「同じ部署の社員と仲良くなる機会を設けましょう」
- 5 「仕事に慣れるために、実習時間を増やしてみませんか」

## (精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

### 〔事例〕

Q市障害福祉課に勤務するH精神保健福祉士に、地域包括支援センターの主任ケアマネジャーから電話があり、「ホームヘルパーから、『訪問に行くと、同居する子が部屋から出て来ないし外出もしないと言われ、その対応の仕方が分からない』と相談されて困っている」とのことだった。H精神保健福祉士は、その話を聞きながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、Q市には同様のひきこもり課題を抱える事例が他にもあるのではないかと思った。(問題 58)

Q市におけるひきこもりの事例では、「退職」や「新型コロナウイルス感染症」をきっかけとするものが目立ち、ひきこもり期間は「2年から3年未満」が多かった。H精神保健福祉士はのちに開催された「協議会」において現状を報告し、ひきこもり問題に対応するため、専門部会の立ち上げを提案して、承諾された。その後、保健所、基幹相談支援センター、ひきこもり地域支援センター、ひきこもり支援をしているNPO法人、Q市社会福祉協議会、地域包括支援センターが集まり、第一回の専門部会を開催することとなった。専門部会ではH精神保健福祉士がQ市の現状報告後、ファシリテーターとなり、参加者に支援の悩みやひきこもっている人のメンタルヘルスに関連する課題等について自由に意見を出し合ってもらった。意見としては、「女性のひきこもっている人の増加が目立ち始め、このままだと長期化し、メンタルヘルス問題の悪化が懸念される」こと、「それまであった人間関係も疎遠になって家族以外と会話していない」こと、「親を介護しながら扶養されている」こと、「自分の先行きが不安になって不眠に陥っている」こと等が挙げられた。(問題 59)

数回にわたる専門部会のまとめとして、「女性の増加が目立ち、彼女たちは、もう一度誰かとつながりたいという気持ちがあるがなかなか自分からは行動しにくいようだ」ということで意見が一致した。そして、専門部会は新たな取組の提案と報告を行い、それを受けたQ市は提案に基づく取組を行うこととした。(問題 60)

(注) 「協議会」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づき行われる協議会のことである。



問題 58 次のうち、この後にH精神保健福祉士が行うこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソーシャルネットワーク
- 2 ソーシャルワークリサーチ
- 3 ソーシャルサポート
- 4 ソーシャルキャピタル
- 5 ソーシャルグループワーク

問題 59 次のうち、この時点でH精神保健福祉士がファシリテーターとなり、参加者と共に行ったこととして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 傾聴
- 2 参与観察
- 3 KJ法
- 4 ブレインストーミング
- 5 ディベート

問題 60 次の記述のうち、Q市の新たな取組として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 居場所やつながりを作るために、同じ悩みを語り合うサロンづくりを進める。
- 2 一人暮らしの支援として、住宅入居等支援事業を開始する。
- 3 日常生活自立支援事業の広報を積極的に行う。
- 4 市内の精神科医療機関の一覧をひきこもっている人たちに送付する。
- 5 家族内での役割を獲得するための介護教室を開催する。